

4) 8月に出荷できる球の大きいたまねぎ「北見交39号」

(たまねぎ新品種候補「北見交39号」)

北海道立北見農業試験場 作物研究部 畑作園芸科
ホクレン農業総合研究所 長沼研究農場
(株)サカタのタネ 北海道研究農場

1. はじめに

北海道では、本州産から北海道産への切り替え時期に当たる8月上旬からの安定出荷を目的として、たまねぎの早期は種作型栽培(2月中・下旬は種、4月中・下旬移植)を推奨している。しかし、この作型に適する北海道向けの極早生品種は極めて少なく、さらに、極早生品種は生育期間が短いために気象条件の影響を受けやすく、中晩生品種よりも収量性に劣ることから、生産者は極早生品種の栽培を敬遠する傾向にある。こうした状況の中、たまねぎ産地からは8月上旬から安定出荷が可能な多収品種の育成が強く求められていた。

2. 育成経過

「北見交39号」は、収量性に優れた北海道向けの極早生品種の育成を目標として、北見農試、ホクレン農総研およびサカタのタネとの三者共同研究により育成された。北見農試がホクレン農総研と共同で育成した細胞質雄性不稔系統「BPR93509-01A」を種子親とし、サカタのタネが育成した花粉親系統「NS」を交配して得られたF1品種である。平成13年に交配を行い、平成14年から各種試験を実施した。

3. 特性の概要

1) 形態的特性

「北早生3号」、「北はやて2号」と比べ草姿は開張し、葉色は淡い。葉折れは「北はやて2号」と同等でやや多く、葉先枯れはやや多い。

2) 生態的特性

倒伏期は「北早生3号」よりやや遅く、「北はやて2号」と同等である。規格内収量と平均一球重は「北早生3号」、「北はやて2号」に優る(図1, 2および表1)。規格内率は「北早生3号」に優り、「北はやて2号」と同等である。規格外となる変形および分球発生率は低い(表1)。規格内収量構

成は、大玉規格である2LおよびL大比率が全体の8割以上を占める(表2)。乾腐病抵抗性は「北早生3号」に優り、「北はやて2号」にやや優る(表3)。

3) 品質特性

球品質評価は「北早生3号」にやや優り、「北はやて2号」にやや劣る(表1)。内部品質は、「北早生3号」、「北はやて2号」と比べて、辛さの指標であるピルビン酸生成量は同等以下であり、Brixと乾物率は低く、りん葉の厚さは同等である(表4)。官能評価は、「北はやて2号」と比べて、ソテー時の硬さが「やや弱い(軟らかい)」となった他は同等である(表5)。

4. 普及態度

「北見交39号」を早期は種作型栽培に導入可能な多収品種として位置付けることで、現在は北海道のたまねぎ栽培面積(約11,000ha)の5%(約600ha)程度のシェアに過ぎない極早生品種の作付けの拡大をはかるとともに、本州産から道産への切り替え時期である8月のたまねぎの安定供給に寄与できる。

1) 普及見込み地帯

全道のたまねぎ栽培地帯。普及見込み面積は300ha。

2) 栽培上の留意点

(1) 乾腐病抵抗性は「北はやて2号」よりやや優るが、激発ほ場での栽培は避ける。

(2) 裂皮等による球品質低下を防ぐため、適期の根切りと枯葉揃い後の速やかな収穫に努める。

(3) 根張りが強いため、根切りが不十分な場合には切断されなかった根が土中に残り、球の二次肥大や枯葉時期の遅延につながるおそれがある。

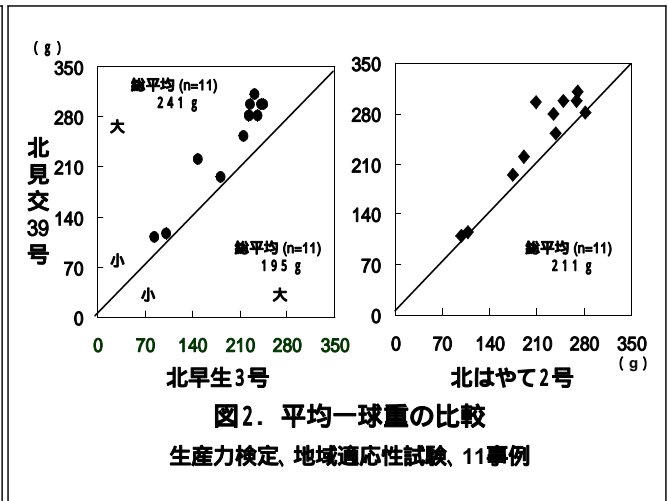
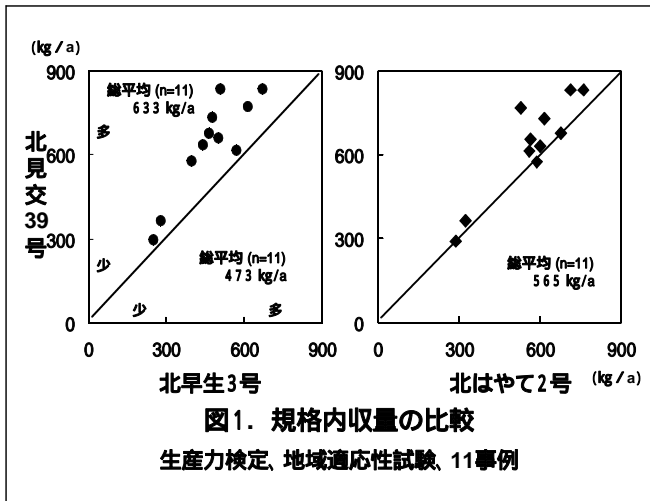


表1. 生産力検定試験成績 (育成場3場の平均)

品種 系統	倒伏期 (月日)	腐敗球率		規格内 収量 (kg/a)	同左 比 (%)	規格 内率 (%)	平均 一球重 (g)	総収量 (kg/a)	規格外球数割合		球品質 ⁴⁾ 評価
		乾腐病 (%)	その他 ^{注3)} (%)						変形 (%)	分球 (%)	
北見交39号	7.20	0.5	6.5	679	134	85	272	804	3.1	0.5	5.3
北早生3号	7.19	0.6	3.6	508	100	75	222	683	11.1	7.1	5.0
北はやて2号	7.20	0.4	5.4	591	116	85	232	705	4.1	4.4	5.7

注1) 平成16-17年の2カ年平均、栽培は早期は種作型(2月中・下旬播種、4月中・下旬移植)で実施。

注2) 北見農試は移植直後からべたがけ被覆を実施(1カ月間)。

注3) 乾腐病、ホトトギス病害、りん片腐敗病、肌腐症、夕霧ハニ被害、等。

注4) 硬さ、外皮色、均一性、皮ムケ程度の各特性を総合的に評価、9(良)-1(不良)。

表2. 規格内収量構成 (サイズ別収量)

品種 系統名	規格内収量構成(kg/a) ^{注2)}				構成比率(%)			
	2L	L大	L	M以下	2L	L大	L	M以下
北見交39号	245	341	83	7	36	51	12	1
北早生3号	16	168	251	32	3	36	54	7
北はやて2号	71	341	195	11	12	55	31	2

注1) 北見農試とホクレン農総研の2場、H16-17年の2カ年平均。

注2) 2L: 球径9cm以上、L大: 球径8-9cm、L: 球径7-8cm、M以下: 球径6cm以下。

表3. 乾腐病接種検定における発病株率(%)

品種・系統	北見農試	ホクレン農総研
北見交39号	30.5	32.1
北早生3号(弱) ^{注2)}	69.6	54.3
北はやて2号	43.3	52.1
スーパー北もみじ(強) ^{注2)}	30.0	30.9

注1) H16-17年の2カ年平均。

注2) (弱): 弱指標、(強): 強指標。

表4. 内部品質分析結果 (生スライス)

品種 系統名	PVA生成量 ^{注2)} (μmol/g)	Brix	乾物率 (%)	りん葉厚さ (mm)
北見交39号	6.90	7.2	7.9	4.71
北早生3号	7.51	8.8	9.5	4.61
北はやて2号	6.94	8.2	8.9	4.71

注1) ホクレン農総研で実施、平成16-17年の2カ年平均。

注2) ピルビン酸生成量: 辛さの指標であり、数値が大きいくほど辛みが強い。

表5. 「北見交39号」官能評価 (ホクレン農総研)

生スライス				ソテー			
甘味	苦味	辛味	硬さ	甘味	風味	硬さ	好み
0.3	-0.2	0.0	0.2	0.5	0.0	-1.0	0.4

注1) 平成15-17年の3カ年の平均。

注2) 評価尺度: 「北はやて2号」を標準(0)とした指数評価。

2(強い) ~ -2(弱い)